

# 日本村落研究学会 研究通信

(No261 2021. 7. 7)

JARS (Japanese Association for Rural Studies)  
Newsletter (No261, July 7, 2021)

(事務局) 山下亜紀子(総務担当)・武田里子(会計担当)・松本貴文 (Web 担当)

連絡先：〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学大学院 人間環境学研究院 山下亜紀子研究室内

TEL: 092-802-5178 E-Mail : akiko-y8@lit.kyushu-u.ac.jp

郵便振替口座：00150-9-387521 日本村落研究学会

ホームページ・アドレス : <http://rural-studies.jp/>

- I. 理事会報告 (2021 年度第 2 回理事会、2021 年度第 3 回臨時理事会)
- II. 第 69 回 (2021 年度) 大会の案内
- III. 2021 年度第 69 回村研大会 自由報告申込期限等の変更について
- IV. 日本村落研究学会賞選考委員会報告
- V. 社会学系コンソーシアム評議員会報告
- VI. 農業経済学関連学会協議会報告
- VII. 地区研究会活動報告・案内
- VIII. 追悼
- IX. 学会費納入のお願い
- X. 新入会員の紹介

## 【重要なお知らせ】

■11月6日、7日に周防大島で実施が予定されていた2021年度大会(第69回大会)は、オンラインで開催することとなりました。(II. 第69回(2021年度)大会の案内 参照)

■本学会の会計年度は10月1日から9月30日となっています。2021年度は9月末で終わりますので、会費納入がまだの方はなにとぞよろしくお振込みください。(IX. 学会費納入のお願い 参照)

## I. 理事会報告

### 【2021 年度第 2 回理事会】

日時：2021 年 4 月 24 日 (土) 14 時～

場所：WEB 会議

出席者(五十音順・敬称略) 秋津元輝、芦田裕介、市田知子、岩間剛城、北島義和、佐久間政広、高野和良、武田里子、築山秀夫、原山浩介、福田恵、松本貴文、牧野厚史、矢野晋吾、山下亜紀子

### 1. 事務局

#### 1) 会員異動について

○入会(敬称略) 6名

氏名	所属	会員種別	紹介者
伊藤将人	一橋大学社会学研究科	院生会員	相川陽一
庄司貴俊	東北学院大学非常勤講師	院生会員	金子祥之
辻本侑生	株式会社浜銀総合研究	正会員	加藤秀雄

藤井紘司	所 千葉商科大学	正会員	閻美芳
土取俊輝	神戸大学大学院国際文 化学研究科	院生会員	足立重和
Sepala Mudiyansele Chinthaka Bandara Karalliyadda	ラジャラタ大学	海外在住 会員	藤村美穂

○退会（敬称略） 4名

二宮哲雄（ご逝去）、植田今日子（ご逝去）、戸田典樹、湯澤規子

○特別会員

岩本由輝会員を特別会員として推挙することとした。

会員数：413名

## 2) 院生会員について

院生会員の会費を2000円とすることとし、会員細則の改正について、大会時総会に諮ることとした。

## 2. 研究・年報編集委員会

1) 本年度大会のテーマセッションは、高野和良（九州大学）をコーディネーターとして準備を進めています。報告者は、加来和典（下関市立大学）、松本貴文（國學院大學）閻美芳（早稲田大学）、村田周佑（鳥取大学）です。第1回目の研究会を2021年4月11（日曜）日にオンラインで実施しました。

（矢野晋吾）

## 3. 村研ジャーナル編集委員会

1) 6月初頭に、ようやく『村研ジャーナル』第54号をお届けしました。前号に引き続き、遅れが発生したことをお詫び申し上げます。今回もまた、新型コロナウイルスの影響に翻弄されました。やはり、農文協プロダクションの在宅勤務による対応、ならびに編集委員が農文協プロダクションに足を運べないことによって確認・意思疎通に手間取ったことが、大きな要因になりました。ただ、この遅延は、いわば現在の編集体制の一番脆弱な部分を直撃しているともいえ、体制そのものを見直す時期に来ているともいえます。この点については、継続的に議論をしたいと思います。

2) コロナ禍により、研究が進みにくくなっていることを、投稿される論文数の減少から感じています。従前通りとはなかなかいかないかもしれませんが、少しでも会員それぞれの研究が進むことを願いつつ、積極的な論文の執筆・投稿をお願いしたいと思います。

（原山浩介）

## 4. 国際交流委員会・ARSA 関連

### 1) 2022年 IRSA ケアンズ大会参加登録サイト開設のお知らせ

2022年に延期となりました世界農村社会学会大会（IRSA2022）について、参加登録サイト（<https://www.irsa2022.com/>）が開設されましたので、ご確認ください。

なお、日程は2022年7月19～22日です。よろしくお祈りします。

（市田知子）

### 2) 第7回 ARSA 大会延期のお知らせ

第7回アジア農村社会学会（ARSA）国際会議が2022年から2023年開催に延期されたことをお知らせいたします。ARSA理事会（秋津元輝会長）は、中国広州での対面会議の実施のために12か月前後の開催延期を決定いたしました。参加をご予定の方はご注意ください。

開催まで期間がありますので、ぜひとも積極的にご参加を検討いただけますようお願いいたします。とりわけ若手研究者で国際会議参加が初めての方は、準備のサポートをいたしますので、お気軽に、渡邊悟史（ARSA事務局長

s.watanave[-@-]gmail.com)にまでご連絡ください。

(渡邊悟史)

### 【2021年度第3回(臨時)理事会】

日時：2021年6月27日(日)13時～

場所：WEB会議

出席者(五十音順・敬称略) 秋津元輝、芦田裕介、市田知子、岩間剛城、川田美紀、北島義和、佐久間政広、高野和良、武田里子、西山未真、原山浩介、福田恵、松本貴文、牧野厚史、村田周祐、矢野晋吾、山下亜紀子

欠席者(五十音順・敬称略) 桑原考史、築山秀夫

#### 1. 事務局

以下の会員異動について承認された。

○入会(敬称略) 5名

氏名	所属	会員種別	紹介者
劉 運昂	東京大学大学院総合文化研究科	院生会員	田原史起
レン オスカー	神戸大学人文学研究科	院生会員	平井晶子
村中 大樹	大阪大学文学研究科	院生会員	安岡健一
左 雯敏	早稲田大学国際教養学部	正会員	田原史起
谷川 彩月	人間環境大学人間環境学部	正会員	望月美希

○退会(敬称略) 2名

渡邊安男、山泰幸

会員数：411名

#### 2. 2021年度大会(第69回大会)について

オンラインでの開催とすることとした。また大会開催日時は予定通りとし、参加費は無料とすることとした。自由報告申し込みの締め切りを9月15日に変更した。

#### 3. 学会研究奨励賞などについて

今後の学会研究奨励賞の選考の進め方などについて確認した。

## II. 第69回(2021年度)大会の案内

第69回(2021年度)大会のオンラインでの開催について

研究通信においてお伝えした通り、第69回(2021年度)大会は、対面開催の場合、福田恵会員(広島大学)を実行委員長とし、周防大島、岩国での開催を予定して準備を進めてまいりました。

しかし4月24日に開催された理事会において、新型コロナウイルスの現状や影響をふまえて検討を行い、第69回(2021年度)大会については、オンラインで開催することを決定いたしました。なお日程に変更はなく、11月6日に自由報告、11月7日にテーマセッションのスケジュールになります。

オンライン大会は、大会運営プロジェクトチームにより運営してまいります。実行委員長は、研究委員の川田美紀会員、委員は下記のメンバーです。

北島義和会員、平井勇介会員、西山未真会員、村田周祐会員、高野和良会員、矢野晋吾会員、松本貴文会員、五十川飛暁会員、山下亜紀子会員

開催形式の具体的方法やスケジュールを検討し、決まり次第、メール、学会HP、研究通信を通じて、会員の皆様にお知らせいたしますので、よろしくお願いいたします。

引き続きご理解のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

(理事会・研究委員会)

### III. 2021 年度第 69 回村研大会 自由報告申込期限等の変更について

2020 年度村研大会はオンライン形式で実施致します。これに伴いまして、自由報告に関するスケジュールが変更になります。

大会報告エントリー・報告要旨提出締切：2021 年 9 月 15 日水曜厳守

自由報告を希望される方は、下記の要領で申請して下さい。また報告要旨も同時に提出する形となります。締切日以降の申し出は受け付けられません。

提出事項：自由報告のタイトル・氏名・所属、報告要旨（1200 字程度）

送付先：事務局内研究委員会宛に（メール、あるいは郵便にて）提出

（事務局のメールアドレス、住所は通信の 1 頁をご覧ください）。

学会からの受理連絡をもって受付完了とします。

### IV. 日本村落研究学会賞選考委員会報告

2021 年 2 月 10 日発行「研究通信 No. 260」において、2021 年度「日本村落研究学会研究奨励賞」の推薦を会員の皆様に 2020 年 5 月末までお願いいたしました。推薦期間内に 2 件の推薦があり、現在、選考委員会を組織し、選考作業を開始しております。今秋の 2021 年度村研大会にて結果をご報告いたします。

(佐久間政広)

### V. 社会学系コンソーシアム評議員会報告

社会学系コンソーシアム理事会がさる 4 月 5 日（土）にオンラインにて開催され、今年度のシンポジウムについて、2022 年 1 月 29 日（土）午後に「いま『戦争』を考えるー社会学の視座から」（仮）のテーマで企画されていることが報告された。なお、当コンソーシアム理事は学会として担当しているため、学会長が交代するすると新しい学会長が理事を引き継ぐことを確認した。今回の任期は 2022 年 1 月までである。

(秋津元輝)

### VI. 農業経済学関連学会協議会報告

農業経済学関連学会協議会がさる 3 月 28 日（日）にオンラインにて開催され、新型コロナウイルスの影響をテーマとした研究集会についての学協会の取り組み、および研究倫理規程の整備について、とくに日本学会協議会から提起があり、議論した。前者について、当学会として新型コロナの影響については長期的研究視野にて考えたい旨の回答をした。

(秋津元輝)

### VII. 地区研究会活動報告

○関東地区研究会

日時：2021 年 03 月 20（土曜）日 14:00～17:30

会場：Zoom オンライン

報告者：菅豊、高田知和 コメント：大門正克

出席者：合計 47 名

第 1 報告：菅豊（東京大学）「パブリック・ヒストリーとは何か？」

第 2 報告：高田知和（東京国際大学）「地域社会の歴史は誰が書いてきたのかーアカデミズム史学、郷土史、いわゆる『字誌』ー」

コメント：大門正克（早稲田大学＝非会員）

本研究会は、フィールド研究における「歴史」とは何か、という点を改めて考えることを目的とした。昨年来、コロナ禍のもとでフィールド調査が困難となり、既存の議論の相対化が迫られてきた。こうした状況も踏まえ、コロナ禍とのかかわりも含めて議論を行った。

第1報告の菅豊会員は、民俗学の立場から、近著『パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦』を手がかりに、パブリックヒストリーの構想の全体像、フィールド研究における歴史の主体、捉え方などについて報告を行った。第2報告の高田知和会員は、社会学の立場、特に市町村史や字史の現場を調査してきた経験を踏まえ、歴史を描く主体、その描き方などについて検討がなされた。両報告を受けて、大門正克氏は、自身が東日本大震災後に行ってきたフォーラムと、著書（『語る歴史、聞く歴史—オーラル・ヒストリーの現場から』）から立脚点を示した上で、菅報告について、パブリック・ヒストリーの歴史とオーラル・ヒストリーの歴史の共通点・相違点、歴史学の「場」、「担い手」、「史料」の開放という論点、高田報告に対しては、報告の視座、地域史誌の多様性と時間についての論点を示し質疑応答が行われた。そのうえで、コロナ禍において、フィールド研究における「歴史」を「場」、「担い手」、「史料」の3つの視点から再検討する視点が提示された。

今回の研究会では、会員外の参加者、とりわけ大学院生の参加者が多数見られ、今後の研究会のあり方を考える上でも、有意義な会であった。

(矢野晋吾)

## Ⅷ. 追悼

植田今日子さん 追悼

佐久間政広

2021年2月11日、日本村落研究学会理事の植田今日さんが逝去された。

2020年初夏のころから植田さんと連絡をとるのが難しくなり、心配していた。2020年の年末に植田さんからメールが届いた。病床にあることを告げつつも、話を聞くこと、書くことにまだ未練があり、研究を続けたい、と記されていた。その希望がかなうことを切に願った。

植田さんは村研で活躍した。『村落研究ジャーナル』27号(2007年)掲載の論文「過疎集落における民俗舞踊の「保存」をめぐる一考察：熊本県五木村梶原集落の「太鼓踊り」の事例から」は、2009年度日本村落研究学会研究奨励賞論文の部の受賞作となった。2014年11月の村研宮古大会では、シンポジウムのコーディネーターを務め、その成果は、植田今日子編『年報村落社会研究第51集 災害と村落』（農山村文化協会、2015年）にあらわされた。著書『存続の岐路に立つむら—ダム・災害・限界集落の先に』（昭和堂、2016年）には、2017年度日本村落研究学会研究奨励賞著書の部が与えられた。学会の運営においても、理事、ジャーナル編集委員などいくつもの役職に就き、それぞれで力を尽くしていただいた。

植田さんとは、2010年から2016年までの6年間、東北学院大学教養学部の同僚であった。2011年の東日本大震災の後には、植田さんの車の助手席に同乗して、たびたび津波被災地の気仙沼市唐桑に出かけた。（それまで私が他の人を乗せて調査にいていたから、一瞬「出世」したが、植田さんが上智大に移ったら元に戻った。）唐桑の津波犠牲者への施餓鬼会法要と浜払い（浦払い）の見学、舞根地区集団移転の聞き取りなどに同行し、得がたい経験をした。片道3時間の行き帰りの車の中は、研究上のさまざまな話題であつという間に時間が過ぎた。植田さんは「生産におけるムラとしての共同活動の消失」イコール「ムラの消滅」の議論は理解できるけど、いまでも言われる「おらほのムラでは」のムラとは何でしょう？」としばしば口にした。思うに植田さんは一貫して、九州の山村の太鼓踊りという民俗舞踊、東北三陸における津波被災に対する漁村住民の対処行動、沖縄の離島に架けられた橋など「目に見えるもの」を通して、目に見えないムラを描き出そうとしていた。

植田さんは、フィールドに対して、外から訪れる学術調査者にとどまらなかった。唐桑の一集落が津波被災により災害危険区域に指定され、住民が長年住み続けてきた地から離れ各地に向かわざるをえなくなったとき、植田さんは同僚の教員グループを組織してプロジェクトを立ち上げ、住民のために『更地の向こう側—解散する集落「宿」の記憶地図』（かもがわ出版、2013年）を制作・公刊した。住民へのインタビューを重ね、資料を集め、消滅する集落の過去と現在を、文章とイラストで再現した。住民のみなさんにとっても喜んでもらえた。植田さんの強い意志と大車輪の活躍がなければ、完成しない一冊であった。

このプロジェクトメンバーの一人は、植田さんの訃報が伝えられたとき、一緒に活動できたことを植田さんに深く感謝する言葉とともに、「すごい馬力で周囲をまきこみ、プロジェクトを立ち上げ実現し、あらしのように上智大学へ去

って行った」と述べた。植田さんは、つねに全力で駆けていた。歩みを止めることは、とても無念だったと思う。衷心より哀悼の意を表したい。

#### IX. 学会費納入のお願い

2021年度（会計年度：2020年10月1日～2021年9月30日）の学会費の納入をお願いいたします。

昨年度より学会費は原則としてSMOOSY（スムーズー）システム上で行っていただくこととし、SMOOSY（スムーズー）システムの「マイページ」に表示される振込口座にお振込みいただく方式に変わりました。請求書と領収書は「マイページ」からダウンロードできます。所属先の会計手続きなどにご利用ください。「郵便振替口座」00150-9-387521からのお振込みも可能です。

なお所属機関から学会費をお振込みいただく際は、郵貯口座／バンクチェック口座ともに振込者のお名前は機関名ではなく会員名にしてください。担当部署にお願いしてください。

会費を3年以上滞納した場合、会員資格を失います。

また、会費納入会員にのみジャーナルをお送りすることになっておりますので、既に発行された『村落社会研究ジャーナル54号』は、2020年度までの会費を納入された方にお送りしました。

（事務局）

#### X. 新入会員の紹介

省略